

中齋塾 東京フォーラム
平成 29 年度 第 2 回講話

平成 29 年 2 月 11 日
於 湯島聖堂

おはようございます。素読をいたしますと気持ちがすっきりしまして、特に素読をされる時、そのときの状況が浮かんでくるようですと、さらに気持ちが良くなります。今回の素読は聞いていて、だいぶ読み込んだなという気がしました。気持ちよく聞かせていただきました。

【論語の視点】

今回の素読は、孔子の人となり親しみをもって感じてくるという文がありました。そこらへんを少し申し上げます。孔子という人は、とても人間臭くて親しみ深い。今日は携帯忘れてきちゃったよ…なんて人には親しみやすさを感じるわけです。私は携帯を忘れるぐらいならいいんじゃないと思う。

自転車に乗り始めた時、スマホをポケットに入れて土手を走って、家に帰ったらスマホがなかった。それから家族総出で土手を一所懸命に探して歩いてくれましたが見つかりませんで、1 週間ぐらいたったら出てきました。かなり離れた公園に捨ててありました。警察から連絡がきて取りに行きました。その間は使えませんでしたから、家内のスマホを私が預かって鳴ったら自分で取ることをしていました。

私は中齋塾フォーラムを始める前に「悟道会」という組織を 20 年ぐらい続けておりました。ずっと続けておりましたので、だんだん論語の話をするのも慣れてきますが、途中ではっと気がついたんです。「聖人君子」の真似はできない。ミスをしたこと、失敗したこと、これは一生懸命言おうではないか、言ったほうがよい。中齋塾フォーラムをスタートさせた最初の頃は、あまり自分の失敗談を言わなかったのですが、財団法人に切り替えてから、せっせとミスを発表するようになりました。これは何かなと思ったら、御紹介する本に「今日も人をたくらむ」という部分がありますけれども、とても面白い本です。

【紹介書籍】

『人はどうして老いるのかー遺伝子のたくらみ』日高敏隆著 朝日文庫

アポトーシスの法則を、違う表現で言っています。この中で見ると面白かったのが、論語に「吾十有五にして学に志す」から「七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず」とありますが、この本の中では70代になると人は歳を重ねたことを自慢するようになります。

私は毎週月曜日、会社の道場で合気道をしています。70歳になったら、特に新卒の人は意識的に来月から捕まえて「君、70のじじいと取っ組み合って何でこのざまなんだ。これぐらいしか出来ないのか、けしからん。君はいったい幾つだ」とね。この間の相手は23歳とといったかな。とにかく自分の得意な部分でしか相手をしないことにしています。相手の得意な部分でやりあったら、とてとても参ってしまう。

この間、人間ドックで体中を検査しました。今年の2月は息が上がってきて足もたるんでいる。これは困ったねと思い自転車に乗ると宣言しました。昨年と同じ内容でだいぶ意識して、チェックをしていきました。看護師さんから細かく分析したものをいただいた。多分ごますりの部分が入っているとは思いますが、普通は最大の負荷をかけると、途中で目的とした部分まで到達しないで足が痛くなり、息が上がってお手上げになる。前回は何とかギリギリ年寄りちょっと良いぐらいでしたけれども、今回はびっくりするぐらい身体機能が向上しておりますと言ってくれました。

御年配の方は自分の体を意識した時に、どこかポイントを定めて自分の体力年齢を確認しておくと思いいます。

論語の話から余計なほうにいきましたが、人前でお話をする、または個々にお会いをする時に、なるべく自分のミス、失敗談、これを枕に使ったり笑い話に使ったりするのはとても良いし、親しみやすくなる感じがします。

<憲問十四>

【三〇】子曰く、君子の道なる者三つあり。我能くすること無し。仁者は憂えず。智者は感わず。勇者は懼れずと。子貢曰く、夫子自ら道えるなりと。

【三一】子貢 人を方ぶ。子曰く、賜や賢なるかな。夫れ我は則ち暇あらずと。

子貢は口八丁手八丁の才人で、お金を稼ぐのがとても上手。「子貢 人を方ぶ。子曰く、賜や賢なるかな。夫れ我は則ち暇あらずと」というところが、一を聞けば本人が二～三ぐらいは分かるという言い方をした。顔回は一を聞いて十を悟るということですから子貢は謙遜して二か三ぐらいしか分かりませんからまだまだですと、少し胸を張っている部分がある。子貢に、もう少し謙遜をしてごらんなさいという時に皮肉を言いだした。「子貢が人を方ぶ」というのは、人を比較してみたらどうだと批評するわけです。「賜や賢なるかな」

賜は子貢のことですから、子貢おまえはいいね、私はおまえみたいに、あの人とこの人は良いよ悪いよなど、そんなことを言っている暇はない。もうちょっと違うことに頭を使いなさいと少しオブラートに包んでいるけれども、孔子の言い方にしっかり棘がある。オブラートに包みながら、本人にはグサグサと突き刺さるような言い方です。ここを讀んでみると、たぶん孔子は、にやりとしながら子貢に対して「夫れ我は則ち暇あらずと」私はお前みたいな暇な時間はないんだよ。お前ももう少しまともに頭使いなさいという部分が見える。さてそうすると現代に置き換えて考えたらどうなるでしょう。

ちょっと逸れますけれど、最近、私はトランプさんのことはトランプ現象と名前を付けています。トランプ現象で面白い就任演説がありました。

矢野弾先生の所にお邪魔をした時に、矢野先生が全文をコピーしてくれました。だから最初にトランプさんが何を言うかによって、その人の言うこと考えることがよく見える。私は TPP 離脱を本当に最初にやったら、物の見方、本人が言っていることは、そのままやっていくであろうと書いていたから、これはやるなと思いました。日経新聞に就任演説の全文が載っています。

就任演説の中でこれは面白いなと思ったことは、我々は簡単なルールをこれからは重要視する。簡単なのは 2 つのルールです。アメリカ国民はアメリカ製品を買いましょう。人を雇うのはアメリカ人を雇おう。その科白の中で、なぜ手を上げたかという部分でこういう書き方をしています。あまりにも長い間、我が国の首都にいる少数の人が政府の見返りを獲得し、人々がそのコストを負担してきた。支配者階級が自らを保護した。しかしアメリカの国民は守らなかった。これが出だしに就任演説の文章で入っています。途中からは、意見を言うだけで行動を起こさない政治家はもう容赦しない。容赦しないというところが面白いですね。

それぞれの新聞によって表現が少し変わるとは思いますが、日経新聞で載せていたのはそういう形です。

就任演説で引っ掛かったのが、良い思いをしてきた人達 (1%対 99%) は、さらに儲けようとし、実際に儲かっていく。他の人達はもう見捨てられてしまったではないか。それに対して私は腹が立っている。これは表の部分で、ひっくり返しますと、私トランプならびにトランプ一族はたくさん富を掻き集めたいと思ったけれども、まだその 1%に入っていないところがある。もうちょっと頑張って 1%の中のトップにいきたい。そういう本音が透けて見える部分があります。でもそれは私が感じた部分だから、そう本人が言ったのではありません。透けて見えたというだけです。

途中の部分で、意見を言うだけで行動を起こさない政治家はもう容赦しない。たまたま泡沫候補で扱われたけれども、見捨てられた人達に一生懸命エールを送っていたら、票が集まってきて、自分でもびっくりしてしまった。まさか自分が大統領になるとは思わなかったけれども、なってしまった。もう他の今までの政治家は容赦しない。叩いて叩きまく

ってくれる。俺のところへ富を掻き集めて邪魔する人は容赦しないと、私は裏の本音が透けて見えました。それを綺麗に言うためにはどうしたらいいか。参謀に頭の良い人がいるのでしょね。アメリカ・ファーストと言った。私はアメリカ・ファーストというのは、トランプ・ファーストと見えます。だからトランプならびにトランプ一族がファーストであると。おまけでアメリカ国民にも、特に今まで虐げられてきた人達には、少し富がいくように努力をしますよと。

そして就任演説の最後の部分で、我々は我々自身の手と労働力でこの国を再建する。そこまでは良いのですが、最後の最後「有難う。あなた方に神の御加護を。アメリカに神の御加護を」と、キリスト教そのものずばりだしています。日本の首相が就任演説の時に、日本でいったらなんだろう。神道、儒教、仏教とか色々ありますが、神道しかないでしょね。でも神道で誰を言うのか？天照大神の御加護をなんて言わないですよ。八百万の神の御加護という言い方は、若干の可能性があります。ただ私達が氣をつけて意識しなきゃいけないことは、今までとは違う大統領が登場した。でも就任演説の最後は同じです。アメリカに住んでいる方々、それからアメリカ国家、神の御加護をと言う。もう完全に身体の中に入っていますね。

就任演説で見たことは、宗教的な色彩と今までの政治家に対して容赦しないという意志の表明。それから今まで虐げられてきた人は、ちょっとは良いことがありますよというメッセージ。これは表の部分です。裏側から本音が透けたことは、トランプならびにトランプ一族に神の御加護を、ということでございます。今日の素読ですが、孔子の人間性が透けて見えて楽しいという部分で、そこから現代に置き換えて、その人の本音が透けて見えるトランプさんが一番面白かろうと思いトランプさんを取り上げました。

谷口代表幹事ーちょっといいでしょうか。トランプさんの演説で、中身は今おっしゃたようなことで良すぎもせず変でもありませんでした。喋りとアクセントが同じテキサス訛りのブッシュの父親もそうでしたが、同じ訛りでもあんなに喋りがすごく下品な喋りで直す人がいなかったのか、すごく耳障りだと言っている人がいる。同じテキサス訛りでも、あそこまですごい耳障りなスピーチは初めてという人が結構いた。ですので、その印象もあるのかなと思いました。

そうなんだ。有難うございます。酒井さんは、どう感じました。…やっぱり同じだ。ちなみにお二人は私から見ると英語がとても達者。だから英語の訛りは私には分からないけれども、なるほどなと聞いています。

では、論語を再開します。「子曰く、君子の道なる者三つあり」一、二、三といった場合は、たくさんという意味で論語の中は使っています。でもこれは完全に三つ。おかしいで

すね。「君子の道なるもの三つあり。我能くすること無し」私はどれもできませんよ。「仁者は憂えず。智者は感わず。勇者はおそれずと。子貢曰く、夫子自ら道えるなりと」ここは子貢と孔子の掛け合いですが、やっぱり面白いところです。子貢からみれば、先生はみんな出来る。心配はしないし、迷うこともない、恐れることもないと弟子の自分からは見える。

言い方を変えると子貢は大風呂敷まではいかないですが、中風呂敷ぐらいは広げるタイプ。先生はなかなか風呂敷広げませんねといっている。そうすると我々がこういう部分を解釈する時に、各先生方がたくさん解説本を書いています。その中で私がよく見るのは貝塚茂樹先生の貝塚論語、宇野精一先生の宇野論語、それから澁澤栄一さんの澁澤論語を見ます。宇野先生は飄々とした君子みみたいな雰囲気先生だから、あまり人のことをあれこれ言わない。貝塚先生は、ちょこちょこ言うので面白い。例えばこの「賜や賢なるかな」については「孔子でもこんなことを言うのか、私は嫌な感じがしたよ」と、書き残しています。自分の考え方を少し入れて解説をすると、何となく解説した人の人相とか風景風体が見えてくると感じます。孔子もこんなことを言うのかな、私も言ったって悪くはないみたい部分が見えます。言い方を変えると、自分は言わないよという表現になります。そういうふうにしていただければ良いと思います。

論語を解釈する時に、それぞれの先生方、貝塚茂樹先生はちょっと癖があって自分の感想を少し言うからこれは楽しい。その人の雰囲気が分かってくる。宇野先生は、直接人間性に触れている人は飄々とした感じが分かりますけれども、文章だけだと味もそっけもない部分がでてしまうから、深くよく読んでいかないと面白くはない。どうしても私は宇野先生を思い出すと、杖をついてゆっくり歩く宇野先生の歩き方が頭の中にあるので、脚の強化もしました。宇野先生と御一緒した時は「先生すみません」と言って、先に行ってしまったこともありましたが…。澁澤栄一さんは三島中洲の訳がベースです。それで明治天皇が好きで、年がら年中引き合いに出します。

「智者は感わず。勇者は懼れずと。仁者は憂えず」は明治天皇の御製を紹介しています。知（鏡）でいいますと、明治 41 年「われもまた更にみがかむ曇りなき 人のこころをかかみにはして」これは多分、ひしての間違いだと思いますが…。というものを紹介しています。仁は明治 38 年「しづが上に心をとめてあがたもり たづきなき身をいつくしまなむ」と明治天皇の知・仁・勇にたいして詠まれた詩を紹介しています。澁澤論語を読むと楽しいのは、明治時代の志士を縦横無尽に切っています。そういうことで色々な先生方の本を読みましたけれど、だいたい御三方に集約されました。

【恒例の質問】

- ・今年に入って良い日が続いたと思われる方、どうぞ手を上げてください。

私は夜寝る時に1~6まで必ず頭に浮かべて寝るようにしています。今日は良い日だったかと思い、良い日だったと答えが返ってきたら、良い日です。

澁澤栄一さんは毎日寝る時に時系列で、今日は誰に会ったか。何を約束したかを全部思い出して行って、次はこれだと思ったら、ぐっすり眠ったという話があります。御本人は澁澤老人の記憶術の秘訣ということで、この話を紹介しています。

最近これを活用しまして、私がみて明らかに認知症だと思う社長がいます。会った時に本人を傷つけないで、本人が認知症だと自覚するようなことを言いました。それは、私は寝る時に1日のことを時系列で書いて必ずメモをするようになった。翌朝起きてメモを見てはっと思い出すのではなくて、朝起きて昨日は何をしたかなとすぐに思い出せば認知症ではない。思い出さなければ認知症だ。でも昨日は思い出すようなことは何もないと認知症の人は思うから、自分の書いたメモをそれから見る。メモを見て思い出すようであれば、これは認知症の始まりだと思ってよい。あの人は80歳ちょっとですけど、「うーん」と言っていて、もしかして思い出してないのかな。ということで認知症であると自覚していない認知症の社長についてはメモを取って翌朝、一呼吸をおいて見ると、その時こんなことあったのか、こんなこと言ってないみたいになったら、クエスチョンマークを自分につきつけようという話を致しました。これは澁澤老人の記憶術の活用です。時系列でメモを残すというのを今年も推薦します。

- ・今年に入って今年も嘘つかない日が多かったねと思われる方でしょうか。
- ・有難うと言い、有難うと言われることが今年に入って多かったです。
- ・今年に入って健康法が、ずっと続いている方。
- ・昨夜、明日を過去形でイメージして眠れた方。
- ・今年に入って、自分で自分磨きをしている方。
自分で自分を褒めてあげれば良いのですけれどね。

【テーマ】

<判断基準を身につけよう>

今日のテーマが「判断基準を身につけよう」ですが、先ほどトランプさんのことを言いましたから、さらっとにします。

税務署が先月、私がやっていた会社に入りました。税務署は結構うるさいんですよ。何故か。私はその時、代表取締役会長を降りていました。それで降りた後も会長室にいるかどうかの確認をする。院政を敷いているかどうかの確認です。それで今まで使っていた部屋は疲れたら寝られるように畳があり押入れがありますので、見ていました。そこには本が入れてあり、要するに物置です。ということで、院政を敷いているかどうかの確認で、物的証拠をチェックするということです。失礼な話だと思う。

税務署は細かいことを、重箱の隅をほじくるようなことをいっばいやる。それで税務署の人が私に来てもらいたいと言うから会社に行きました。1時間ぐらいですと言うから、話しだして気がついたらあと5分。渡部昇一さんの書いた『税高くして国滅ぶ』という本があります。そういう本を引き合いに出して、イギリスが覇権国家から転げ落ちた時に、高すぎる税金が国の滅ぶ原因である。それから税金の元々の発祥は何か。キリスト教の教会が金利を認めるところから始まって、今アメリカが覇権王国から転げ落ちるのについては税金が一つの目安になる。重箱の隅をほじくって税金を取ると、その国家は駄目になる。あなた方は国を滅ぼそうと意識しないでやっているけれども、今の税金の方向は良くないよと、そういう類の話を滔々と致しました。無然として聞いていたね。

家内からは、こてんぱんにやっつけると向こうは腹が立って仕返しをするから、今度はあんまり叩いてはいけませんよと言うから、歴史の話を講釈していただけですけど、それでもやっぱり多少根に持ったような気がします。

「判断基準を身につける」ということについて、人様になにか話をしなければならない時、自分の判断基準はこれだという何かを持っていたほうが良いでしょう。

私は論語の話から「利によりて行えば怨み多し」という判断基準をもっています。それから広げられますので、引き出しをたくさん持つと色々なものに置き換えて話ができます。先ほどトランプ現象を話しましたが、その判断基準を身につけるためには一つの判断基準を持っていれば、何に対しても言えます。何に対しても解釈できる。分からない時も分からないと言える。だいたい一知半解の人、一知半解とは知ったかぶりの人、知らないことを知らないとは言わない。分からないことを分からないと言わない。

知らない、分からないと言えることは、相当なにか専門的なことを自分で持っていて、これは誰にも負けないというものをもっている。これは専門外だから分かりません、知りませんと言える。自分が専門をもっていない場合は、何となくお茶を濁すような話をする。何かひとつ深い井戸、深く掘り下げる井戸、こんこんと湧き上がる泉を持つ。それが必要だと思います。判断基準は井戸が身についた場合には自然と出来るようになります。

【時事評論】

先ほどのトランプ現象をいくつか続けておくと、面白いと思った新聞記事がありました。

2月10日金曜日の読売新聞です。8日のホワイトハウスのスパイサー報道官の記者会見でトランプ氏が首相をフロリダ州の別荘に招待する費用は誰が出すのかという質問がアメリカのメディアから出た。スパイサー報道官は、即答は避けた。アメリカのメディアによるとホワイトハウスはその後トランプ氏の個人的な贈り物として招くと回答したという記事がちょろとありました。たぶん本当の話でしょう。最近、新聞を見て、多分これは本当の話だろうとか、この新聞は嘘をついているなとか、この新聞は無知のあまりにこんなことを書いたんだろうと、新聞も透かして読まないで本当かどうか分からない。意図的にこういう言い方をしたのかという下世話でいけば勘ぐりだらけで読まなければいけない。だから新聞はヒントをくれる。そういう代物にもう成り下がってしまいました。昔の人は新聞読む時は本当だと思って読んでいました。最近、これは本当かなと思って読む。事実はかなり違うということで、人のお金なんてどうだっていいじゃないかと思うけれども、安倍さんがトランプさんの別荘に呼ばれて御馳走を食べるんでしょうけれども、その御馳走の費用を誰が出すのか。アメリカの税金なのか、それともトランプさんの自腹なのかということですが、自腹を切っているとありますが、嘘をつけと思いながら読んでいます。

会員—アメリカの法律では、大統領は自分の企業から利益を得てはいけません。そうすると、ホワイトハウスはトランプさんの別荘を使うことでお金を払うと、大統領府がトランプさんの会社にお金を払うことになって法律違反です。逆に外国の人から、献金も受けられませんから、日本政府が「我々で払います」と言っても、向こうは受け取れないという狭間で、個人でサービスをしましょうということに落ち着いた。

公式表明ですな。公式見解です。ただそれをもう少し突っ込んでいくと、(私の判断基準でみますと)トランプさんは国の法律くそくらえ。だって法律違反いっぱいしているでしょう。トランプさんの本音は今までの政治家は容赦しないと明確に就任演説で喋っている。今までの政治家のやりかたは認めない。法律も認めない。でもホワイトハウスの公式見解としては、なかなか言えない。私が見ている判断基準はアメリカ・ファーストではない。トランプ・ファーストです。どうして自腹切るのよと思う。自腹を切ったように見せることはあるだろうけれども、本当に自腹を切っているのかと私は思います。そういう固定観念というか前提、過程でどうしてもニュースは見てしまう。自分が経営権を持っている会社に出させるのではなくて、系列の下の下とかですね。まるっきり全然関係ないところに負担をかけさせるとかでしょうね。

マクドナルドの記事がありました。これも読売ですね。そこにマクドナルドが三期ぶりに黒字になったと書いてあります。瞬間的に浮かぶのがニワトリの肉の始末の酷さ加減。それとここの社長の強気な会見が両方だぶってくる。私の中イメージでは腐乱したニワトリをマクドナルドの社長が持っているに見える。私は悪くない、間違っていない、大丈夫

だと言いつけた。これは強氣だねと思っていたら、今度はこの新聞記事をみて黒字になった。中身はいろいろ書いてあるけど、ざまあみろという顔のイメージに変わったね。黒字になるとは不思議ですね。あそこのコーヒーは飲みに行くのですが、…余分ですね。

判断基準の元になるものは何かと追いかけていくと、何のことはない。このコーヒー美味しいねと思ったら行くだけのことであって、ついでにその会社がどういう経営をしているのか、一番良いのは、そこの会社の社長に会うことで、会ったら色々と言えるけど、まだマクドナルドの社長に会ってないから、それ以上は言わない。従ってどこかの会社を色々話す場合は、そこの会社の社長と会うのが良いでしょう。

何でも物事は判断基準で見ると、自分の目で見て、自分の耳で聞いて、とにかく体験することが必要だと思う。体験をしたうえで、過去の歴史に学びながらというのかな、過去はどうだったか。人の話を聞く・書物を見るが必要だけれども、体験がないとなかなか見えてこない気がします。

頭に浮かんだから余分なことを申しあげておくと、学者の弊害は字を見ると、つい信用してしまう。昔の書が出てきたとか昔の手紙が出てきたとかというと、明らかな偽書だと分かったもの以外はどれも信用してしまう。活字はこれがおっかないなと最近思います。ということで判断基準は出来る限りの情報をとった上でしばらく寝かせて、そして自分の頭の中にぼんと何か浮かんでくるものを信用すると良いと思っています。

あと 5 分だから、10 周年記念式典がどうしても頭の中に強く残っております。その 10 周年記念式典の時には、これから 10 年後どういうふうになっていくかを言わないといけなから、なるべく色々な情報をたくさん取っておいて寝かせておけば、その中で頭の中で発酵しますから発酵した物を私なりに並べ替えて申しあげていきたいとそう思っています。

その時は、詩吟もやるつもりですから詩吟もどんどん中身を深めていかなければならない。

私は来月 60 代にお別れを告げます。あと何十年人間として生きていけるか分からないけれど、生きている間に人としての完成形を目指すとしたら、あれをしたいな、これをしたいたいなと思いながら今過ごしています。フェイス・トゥ・フェイスで色々な情報を取りたい。今日は珍しい方がお出ですが、喋らなくてもね、顔を見るだけでオーラの出る人と出ない人がいるでしょう。オーラの出ている人からはオーラのお裾分けをいただければ良いかなと思い先ほど申しました。ということで、出来る限りフェイス・トゥ・フェイスをしたいと思います。有難うございました。